

学会録事

1. 日本藻類学会研究奨励賞推薦委員会委員選挙の結果

日本藻類学会研究奨励賞推薦委員会委員選挙（任期：2011年1月1日～2012年12月31日）を2010年12月2日～12月17日にかけて実施した。2010年12月20日（月）に開票が行われ、当選者の承諾を得て以下の5名の委員が決定した。また、規定により、最多得票者である川井浩史氏が委員長に選出された。

川井浩史（神戸大学）委員長、神谷充伸（福井県立大学）、北山太樹（国立科学博物館）、寺田竜太（鹿児島大学）、本村泰三（北海道大学）（敬称略、順不同）

2. 自然史学会連合

2010年度自然史学会連合総会（2010年12月4日：国立科学博物館資料館）が開催された。

1-1. 2010年12月4日現在、加盟団体は39学協会。

1-2. 2010年度事業報告：運営委員会を5回開催。博物館部会を2回開催。ホームページ。講演会：平成22年度自然史学会連合講演会「東北の豊かな自然：ワンダー イン イーハートブ」（11/28、岩手県立博物館）、特別講演会「博物館広域ネットワークの先行事例としての西日本自然史系博物館ネットワーク」（講師は波戸岡清峰氏、12/4、国立科学博物館分館資料館）。その他：地方分権改革推進委員会による博物館法改正（改悪）の動きに対し反対声明を提出；第2回シンポジウム「共生の恵み—ナチュラリストーリーの視点から—」（7/24、国立科学博物館新宿分館）を藤原ナチュラリストーリー振興財団の後援を得て開催。

2-1. 2009年度会計決算報告および監査報告：報告の後、承認された。

2-2. 2010年度会計経過報告：報告の後、承認された。

3-1. 2011年度事業計画：自然史学会連合講演会、NIIが行っている学協会情報発信サービス停止に対する対応、博物館部会問題検討委員会。説明の後、承認された。

3-2. 2011年度予算案：説明の後、承認された。

4-1. その他：学術会議会員・連携会員の候補者情報提供依頼。ロレックス賞の紹介依頼。「自然史・古生物学と生物多様性教育」の紹介。来年度の運営委員会・総会の会場は中央大学にて開催予定。連合の活動のあり方について。来年の総会で次期代表の選挙を実施。

3. 日本分類学会連合

日本分類学会連合第10回総会および第10回シンポジウムが2011年1月8日および9日に国立科学博物館分館で開催された。

<報告事項>

1. 現在の加盟団体は25団体である。2010年度活動報告：第

22回役員会（1/8、国立科学博物館分館）、第9回総会・第9回公開シンポジウム「生物地理学の未来を考える」（1/9、国立科学博物館分館）、日本生態学会第13回公開講演会「なぜ地球の生き物を守るのか？—生物多様性条約が守る自然の価値」（日本生態学会主催、3/20、東京大学安田講堂）の後援、COP10 プレ・コンファレンス（環境省、生物多様性科学国際共同計画-DIVERSITAS-、名古屋大学主催、3/21、3/22、名古屋大学東山キャンパス豊田講堂）を後援、GBIFへの日本の拠出金要望書の提出（7/1）、藤原ナチュラリストーリー振興財団第2回シンポジウム「共生の恵み—ナチュラリストーリーの視点から」（藤原ナチュラリストーリー振興財団・国立科学博物館主催、7/24、国立科学博物館講堂）を後援、第23回役員会（8/9、国立科学博物館分館）、GBIF国内ワークショップ「生物の学名と和名は何故やこしいのか：生物多様性情報探索のキー」（GBIF日本ノード委員会主催、12/12、国立科学博物館）。2. ニュースレター：第17号（6/1）、第18号（11/30）を発行。3. ホームページ：公開シンポジウム要旨、ポスター、ニュースレターなどを掲載。4. データベース：日本産生物種名リスト作成プロジェクト会議を開催（9/24、東京大学）。5. メーリングリスト：会員数は938名、1年間に30名増。

<審議事項>

1. 2011年度広報出版委員会委員の選出について諮られ承認された：佐々木猛智（委員長、Web）、富川光（ニュースレター）、海老原淳（データベース）、川田伸一郎（出版、命名規約）、三中信宏（メーリングリスト）。2. 2010年度決算（一般会計、特別会計）、会計監査報告について説明の後、承認された。3. 2011年度事業計画：以下の事業について説明があり、承認された：2011年第10回公開シンポジウムの開催（1/8、1/9、国立科学博物館分館）、2012年第11回公開シンポジウムの開催、ニュースレター19号、20号の発行、ホームページ（NIIのサーバー停止が予定されており、民間サーバーへの移行を検討する）、データベース（種名リストデータベース初版の2012年度発行を目指す）。4. 2011年度予算：予算案（一般会計）について説明があり、承認された。

[シンポジウム]

シンポジウム1（1月8日）：日本の分類学の現状と展望

1. 「原生生物分類学の現状と展望」中山 剛（筑波大学）、2. 「日本の菌類分類学の歴史・現状・展望」細矢 剛（国立科学博物館）、3. 「植物分類学に対する期待」加藤雅啓（国立科学博物館）、4. 「日本の魚類分類学：現状と展望」矢部 衛（北海道大学）、5. 「ゲノムベースの分子系統学に向けたささやかな試みと系統と分類体系の問題：ショウジョウバエ科の場合」戸田正憲（北海道大学）

シンポジウム2（1月9日）：遺伝子で記述する生活史形質の

多様性

1. 「ゲノム情報から生物間相互作用に関与する遺伝子に迫る—植物・微生物間相互作用を例に—」吉田健太郎（岩手生物工学研究センター）、2. 「植物の分布と適応：ゲノムが語る低地と高地の形質分化」森長真一（東京大学）、3. 「多様な生活史形質を決定する遺伝子の探索：非モデル生物で行う多種間比較オミクス」奥山雄大（国立科学博物館）、4. 「絵かき虫の遺伝学：餌とする植物はどのように決まっているか」大島一正（基礎生物学研究所）、5. 「共生微生物が引き起こす昆虫類の多様化：その分子機構にせまる」細川貴弘（産業総合研究所）

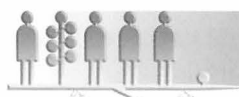
4. 海産外来種研究委員会アンケート調査実施

当学会も参加している海産外来種研究委員会（詳細は「藻類」58巻1号および58巻2号の学会録事をご覧ください）では、我が国の海域の自然環境を保全するためにも、外来生物に関する全国規模での広域かつ長期的な変動を捉えられる情報の定期的集約が必要と考え、アンケート調査を実施しました。集計結果は専門家によるレビューを経た上で公表される予定です。この件に関するお問い合わせは学会事務局までお寄せください。

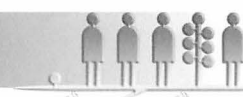
会員の電子メールアドレスの登録 そのアドレスによる会員への連絡について

表記につきまして、「藻類」58巻2号の色紙頁にご案内を掲載しましたが、登録をするおつもりでお忘れの方もいらっしゃると思います。つきましては、「藻類」58巻2号の色紙頁をご覧ください、電子メールアドレス登録を希望される方は登録をお願い致します。

日本藻類学会事務局



会員のページ



★海藻標本のご寄贈に感謝（科博）

国立科学博物館では大型藻類標本室（TNS、つくば市）では、海藻標本の寄贈を歓迎していますが、昨年末、横澤敏和氏（横浜清風高等学校）より、女川産海藻標本249点を寄贈していただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

（北山太樹）

★藻類研究者に会いながら世界一周

フランスの藻類研究者 Anne-Gaëlle Jacquin さんが、藻類研究の“ホットスポット”を巡る興味深い世界一周旅行をしています。「The Algonauts Road project」と題したプロジェクトで、世界各地の先駆的な藻類研究者を訪問し、藻類の利用や普及、環境問題に関する様々な取り組みや課題についてインタビューするのが目的です。旅の様子と訪問先は、日記形式の特設サイトで順次公開されています。

昨年末に日本訪問を終え、長崎大学、東京海洋大学、国立科学博物館植物研究部、株式会社海藻研究所を訪問した様子が公開されました。藻類学会会員の方のお顔も見られますので、関心のある方は下記のサイトをご覧ください。韓国や中国、マレーシア、インド訪問の様子も公開されており、国際学会でお会いする方々も登場しています。

（編）

訪問記のサイト（ブログ）

<http://routedesalgonauts.wordpress.com/>

藻類研究者を巡る世界一周のサイト（プロジェクトの趣旨等）

http://www.algonaute.com/The_Algonauts_Road/Itinerary.html

★奄美のキリンサイ料理

九州南部や南西諸島は、他地域と異なる海藻食文化が見られます。キリンサイ類は一般にカラギーナン原藻として海外で養殖されていますが、宮崎県日南や熊本県天草、鹿児島県奄美大島、沖縄県などでは煮固めたり、海藻サラダとして食べられています。

最近では店頭でキリンサイ原藻を見ることが少なくなりましたが、奄美大島の小売店で販売していたので早速購入しました（写真上）。奄美ではキリンサイ類を「いぎす」と呼んでいます。テングサから寒天をつくるように煮溶かして濾すことはせず、そのまま冷やして固めます（事前の異物除去が重要）。これを味噌漬けにしたり、酢味噌であえて食べます（写真下）。独特の風味はくせになる味です。最近は味噌漬けを土産物としても販売していますので、奄美に行かれる際は是非探してみてください。はいかがでしょうか。（寺田竜太）

